

神奈川県立の図書館の基本理念

神奈川県立の図書館は
「知」を集積し、新たな「知」を育む「価値創造」の場として、
神奈川の文化と産業の発展、社会づくりに寄与します。

平成 26 年度 県立の図書館のミッション

- 時代の潮流を的確にとらえた資料・情報を収集し、現在（いま）を生きるための「有用な知」を提供します。
- 図書館資料とネットワーク情報資源の知を主体的に編集・加工し、利用者の価値創造に貢献します。
- ICT(情報通信技術)とネットワークを活用して図書館への多様なアクセスを確保し、県民への機会均等なサービス実現を追求します。

神奈川県には、県立図書館（横浜）と県立川崎図書館（川崎）の 2 館の県立図書館があります。それぞれの特徴を活かし、機能を分担しながら運営をしています。

〈県立図書館について〉

* 社会・人文系リサーチ・ライブラリー *

神奈川県立図書館は、社会・人文系の資料等を収集・提供し、高度な学習ニーズに対応できるよう、課題解決型のリサーチ・ライブラリーへの展開を目指しています。また、市町村図書館等と相互に密接な連携を保ちながら、全県域を対象とした図書館サービスの向上を図る役割も担っています。

図書資料：816,960 冊
逐次刊行物：7,739 タイトル
視聴覚資料：109,450 点
(平成 25 年度末)



平成 26 年度 運営方針

- 社会・人文系の資料・情報を積極的に収集・提供し、県民に役立つ「調査研究活動支援」機能を高め、「課題解決支援」、「生涯学習支援」、「行政支援」につながるサービスを展開する。
- 図書館資料の存在をアピールし、図書館の活用を促進する目的で行う館内展示や県民公開講座などを積極的に企画・開催し、県立の図書館ホームページを初めとした様々なメディアを活用した発信に努め、多彩で魅力的な「知の機会」を提供する。
- 市町村立図書館の支援に力を注ぎ、大学図書館・県立高校図書館、県立機関等とより密接な連携を図って、県域全体の図書館サービスを充実させる。
- 図書館活動について常に「計画→実施→点検（評価）→見直し」のサイクルで見直しを図り、運営の持続的な改善を行う。
- 県民、利用者の意見・要望を真摯に受け止め、「開かれた図書館」の創造に努める。

各機関との連携による新しい取り組み

- 「小学生向け和洋古典籍実見・体感プログラム開発事業」 （資料 1 参照）
平成 26 年度からの 2 年間、県の「大学発政策提案制度」を活用して鶴見大学と共同で新たなプログラム開発にチャレンジしています。平成 26 年度は小学校 3 校でモデル授業を実施します。
- 開館 60 周年特別記念イベント「笑う門には福来る」 （資料 2 参照）
横浜市芸術文化振興財団（横浜にぎわい座）、県立青少年センターとの共催により実施。「笑いと遺伝子」に関する大学教授の講演と噺家による落語実演という、「笑い」をテーマとしたコラボ企画。図書館の知的刺激と地域の「にぎわい」を組み合わせるといった新しい視点を取り入れました。
- 「手づくり紙芝居コンクール」 （資料 3 参照）
県立青少年センターとともに紙芝居文化推進協議会主催のコンクールを共催し、平成 26 年度には県立図書館長賞を新設しました。

サービス関連の新しい動き

- 生涯学習サポートコーナー
生涯学習情報センターの機能を集約し、平成 26 年 4 月、神奈川県立図書館新館 1 階にオープンしました。生涯学習（講座・イベント・資格・施設など）に関する資料貸出・閲覧や相談員との学習相談などを利用できます。
- 県立図書館横浜西口カウンター
平成 26 年 4 月、かながわ県民センター（横浜駅西口徒歩 5 分）9 階に、15 時から 21 時まで予約図書の貸出、返却、利用登録ができる窓口を設置しました。また、県民センターの開館時間中はいつでも利用できる返却ポストを 1 階フロアに新設しました。
- 女性関連資料室
県立かながわ女性センター図書館の蔵書を県立図書館で受け入れ、平成 27 年 4 月に女性関連資料室を開室します。女性関連の専門的資料を一般資料と併せて利用できるようになります。
- 多目的ホール
平成 27 年 4 月、多目的ホールが新館 4 階に移転し、これまでの約 2 倍の広さになります。県民公開講座をはじめとして、より多彩なイベントが可能となります。

〈県立川崎図書館について〉

* 科学と産業の情報ライブラリー *

神奈川県立川崎図書館は、科学と産業に特化した図書館です。自然科学・工学・産業系の図書や学術雑誌、JIS 規格をはじめとした国内外の規格類を収集し、全国有数の社史コレクションを形成しています。

また、「神奈川県知的所有権センター支部」として特許情報の提供、各種相談、講座等も実施しています。

図書資料：252,734 冊

逐次刊行物：8,603 タイトル

視聴覚資料：1,584 点

(平成 25 年度末)



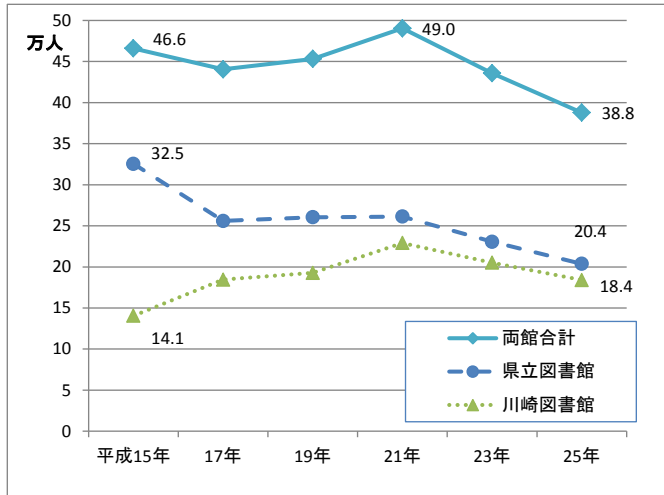
平成 26 年度 運営方針

- 科学技術の最新動向を踏まえた資料・情報を積極的に収集・提供し、「調査研究活動支援」機能を高め、県民に役立つ図書館サービスを展開する。
- 多彩で魅力的な館内展示や各種講演会、講座、科学実験教室、ビジネス支援相談など利用者の知的好奇心に応える企画を、メディアや HP 等を活用して積極的に発信し、一層の利用促進を図る。
- 県内試験研究機関や市町村図書館・大学図書館・県立高校図書館と密接な連携を図り、県域全体の図書館サービスを充実させる。
- 図書館活動について常に「計画→実施→点検（評価）→見直し」のサイクルで見直しを図り、運営の持続的な改善を行う。
- 県民、利用者の意見・要望を真摯に受け止め、「開かれた図書館」の創造に努める。

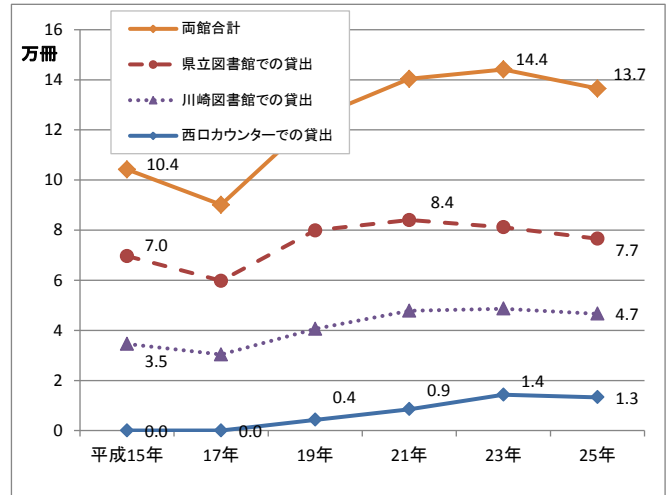
詳細は県立図書館、県立川崎図書館の HP をご覧ください。 <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

【県立の図書館の現状】

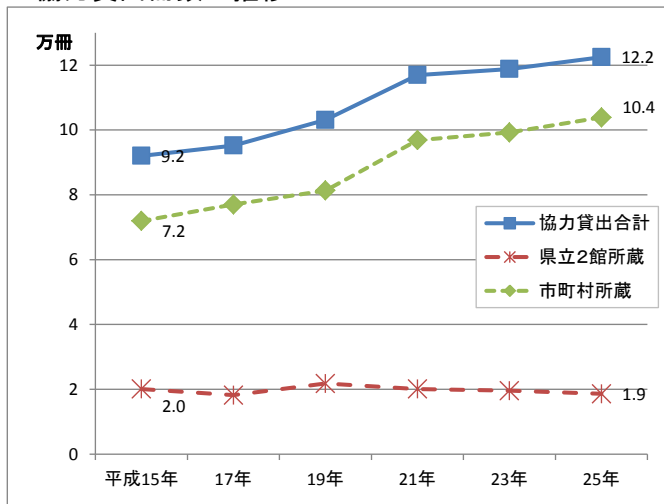
入館者の推移



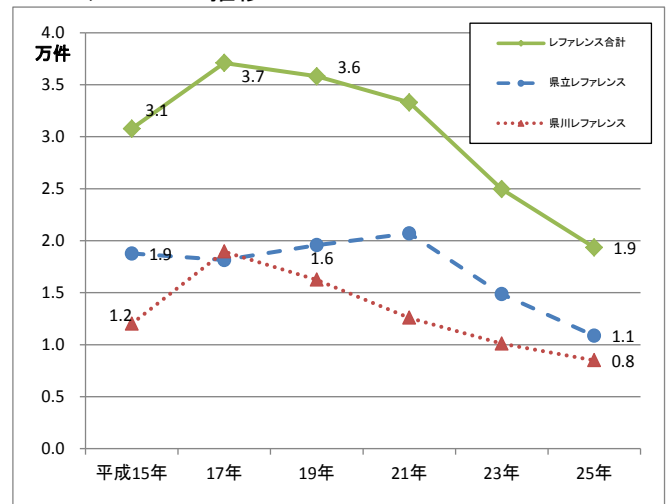
個人貸出冊数(図書資料)の推移



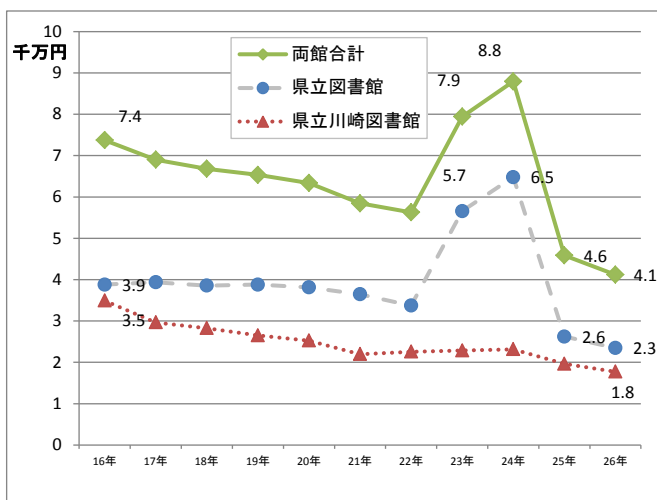
協力貸出冊数の推移



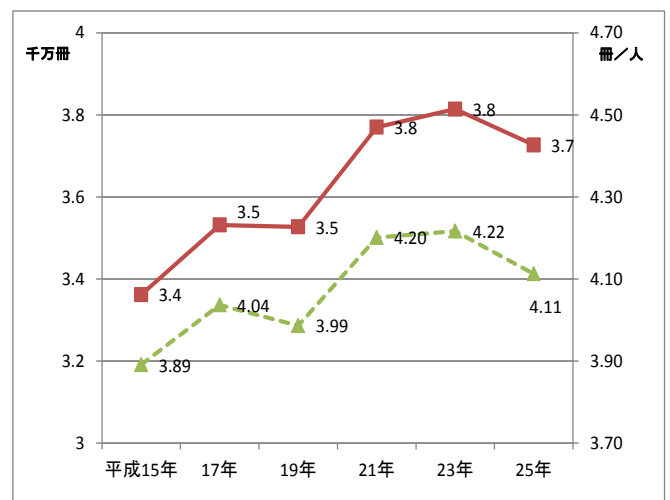
レファレンスの推移



資料費の推移



県内図書館の貸出総数と県民一人あたりの貸出数



平成 16～25 年度は決算、26 年度は予算を使用。

平成 23、24 年度の資料費は「住民生活に光をそそぐ交付金」
2,370 万、3,598 万円を含む

【他の都道府県との比較】

○県立 2 館の図書資料総数 1,069,694 冊（平成 25 年度実績）は都道府県立で 14 番目。

県民 1 人あたりの図書資料数は 0.116 冊で 46 番目。

○県立 2 館の平成 26 年度の資料費は全国で 31 番目。県民 1 人あたりの資料費 4.53 円は 46 番目。

○県内図書館の貸出総数は全国で 5 番目、県民一人あたり貸出数は 33 番目（平成 24 年度実績）。

【神奈川県立図書館と神奈川県立川崎図書館の見直しについて】

今後の政策課題に着実に対応できる行財政基盤の確保を図るのため発足した神奈川県緊急財政対策本部（本部長：黒岩県知事）に対し、助言を行う外部有識者の調査会が平成 24 年 5 月、全ての県有施設について、原則廃止の方向性を打ち出し、それ以降議論が重ねられました。その結果、県立の図書館は存続され、閲覧・貸出機能も継続されることになりました。

さらに県立図書館については、「生涯学習情報センター機能の集約化、川崎図書館及びかながわ女性センターの蔵書の受入れ、相互貸借システムの拡充などの広域的サービスについての検討、建物の建替え・改修についての検討」が、県立川崎図書館については、「川崎図書館の特性・地域性を踏まえた機能への特化、市内への移転」がなされることとなりました。

＜県立の図書館の見直しをめぐる動向＞

年度	県・議会の動き	団体等の動き
平成 24 年度	<p>11 月 7 日、県議会決算特別委員会において県が県立図書館の閲覧・貸出サービスの廃止、県立川崎図書館の県立図書館への集約化を検討していることを表明。</p> <p>11 月 20 日、県内全市町村図書館対象に意見交換会</p> <p>1 月 18 日、市町村立図書館 10 館による見直し検討会（以後 2014 年 2 月まで 6 回開催）</p> <p>2 月 21 日、県議会本会議において、教育長が県立図書館の閲覧サービスの継続・県立川崎図書館のより企業活動の支援につながる機能に高度化・特化した上での川崎市内での存続の検討について答弁。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○国立国会図書館の「カレントアウェアネス」に掲載 ○「神奈川の県立図書館を考える会」発足 ○図書館総合展にて神奈川県資料室研究会（以下：神資研と省略）がアンケート実施 ○神資研 HP で危惧を表明 ○図書館問題研究会神奈川支部が「意見書」提出 ○図書館問題研究会が「緊急アピール」発表 ○神奈川新聞が「ホントに知ってた？ 図書館のこと 県立『廃止』を問う」1 月 28 日から 2 月 8 日まで 10 回連載 ○神資研、アンケート結果を公表 ○神奈川新聞「県立図書館再編、私はこう思う」6 回連載 ○神奈川県図書館協会「県立図書館機能の見直し案に対する要望書」提出 ○神資研「神奈川県立川崎図書館の今後のあり方についての要望書」提出
平成 25 年度	<p>12 月 2 日、県議会本会議において、知事が県立図書館は、建物の建替えや改修を行う、川崎図書館は、川崎市高津区の KSP(かながわサイエンスパーク) へ移転と答弁。</p> <p>2 月 24 日、県議会で教育長が「県立川崎図書館は、KSP に移転した後は、企業活動の支援につながる研究報告書、専門誌などに特化した図書館にしたい」と答弁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○神資研、10 月 29 日—31 日の図書館総合展でアンケート結果等パネル展示
平成 26 年度	<p>6 月 24 日、県議会本会議において、教育長は県立図書館を「神奈川の知の拠点」として再整備すると答弁。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○神資研、11 月 5 日—7 日図書館総合展でアンケート、フォーラム開催 ○神奈川県図書館協会、11 月 7 日図書館総合展でフォーラム開催

<資料>

緊急財政対策の取組結果 取組みの方向性に関する説明資料より抜粋
(神奈川県緊急財政対策本部 平成26年2月)

施設名	取組みの方向性	今後の取組内容		
		これまでの取組内容	25年度	26年度
県立図書館	生涯学習情報センターを廃止し、その機能を集約化 閲覧・貸出機能の継続 川崎図書館及びかながわ女性センターの蔵書の受入れ、相互貸借システムの拡充などの広域的サービスについて検討 収蔵スペースや展示機能の充実を図るため、建物の建替え・改修について検討	市町村との協議、機能の集約化に向けた検討 広域的サービスについて市町村図書館と協議	26年度当初に生涯学習情報センターの機能を集約化 かながわ女性センターの蔵書の受入れ収蔵スペースや展示機能の充実を図るため、建物の建替え・改修について検討	27年度以降、改修等にかかる検討結果を踏まえた対応 29年度中に川崎図書館の一部蔵書を受け入れ
川崎図書館	川崎図書館の特性・地域性を踏まえた機能への特化、市内への移転	機能の特化、移転に向けた検討	機能の特化、移転に向けた調整	29年度中に機能の特化し、かながわサイエンスパークに移転

<資料>

神奈川県 総務局 組織人材部 行政改革課「県民利用施設の見える化」より抜粋										
施設名	財産価格	収支の状況 (単位：千円)								
		H24(決算ベース)		H25(決算ベース)		H26(予算ベース)				
県立図書館	【利用状況】	250,735人		203,719人		204,000人				
	【収入】	56,052		15,631		16,712				
	事業費	137,344		98,058		92,019				
	維持管理経費	96,722		99,519		99,060				
	人件費	常勤	46名	627,354	42名	578,768	41名	567,713		
		再任用	11名		10名		11名			
		臨時的任用	7名		9名		9名			
		非常勤	49名		50名		48名			
	【支出】	861,420		776,345		758,792				
	収支差引	△ 805,368		△ 760,714		△ 742,080				
利用者一人当たりコスト	3.4		3.8		3.7					
利用者一人当たり県負担額	3.2		3.7		3.6					
川崎図書館	【利用状況】	195,413人		184,050人		184,050人				
	【収入】	1,139		1,128		1,684				
	事業費	26,166		22,583		20,555				
	維持管理経費	26,363		27,116		29,386				
	人件費	常勤	17名	258,197	17名	248,455	17名	248,455		
		再任用	4名		4名		4名			
		臨時的任用	5名		5名		5名			
		非常勤	24名		22名		22名			
	【支出】	310,726		298,154		298,396				
	収支差引	△ 309,587		△ 297,026		△ 296,712				
利用者一人当たりコスト	1.6		1.6		1.6					
利用者一人当たり県負担額	1.6		1.6		1.6					